

## 新刊紹介

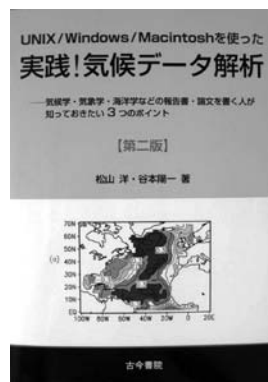
### UNIX/Windows/Macintosh を使った 実践！気候データ解析 (第2版)

松山 洋・谷本陽一 著

古今書院

2008年10月発行, 118頁, 3600円+税

ISBN978-4-7722-4122-9



ここ十数年間のコンピュータの進歩に伴って、自分の手で観測を行うにしても、既存のデータベースを解析するにしても、膨大な量の数値の羅列を相手にすることが増えてきたと感じている。そうした数値の並びが、どのような現象を表しているのか、また本当に意味のある変動なのかどうか、それらを明らかにするためには、相応の統計解析手法の知識とそれを実行するためのコンピュータの知識とが必要になる。本書は、気候データの解析に初めて取り組もうとしている学部生や大学院生（はたまた社会人）を対象として、こうした気候データ解析の技術指南書を目指して、2005年に初版が出版された。ここで紹介する第2版では、初版で見られた幾つかの誤りを修正し、また Macintosh ユーザーに向けた文章が加筆されている。

第1章は「気候データの特性と最低限必要な統計」と題し、基礎統計量、異常値・欠測値の扱い方、統計的検定の方法、相関係数、共分散などについて述べられている。分厚い統計の教科書を前にどこを読んだらよいか分からないという経験を持つ身には、気候データ解析に最低限必要な統計的知識が具体例とともにまとめられている本書はありがたい限りである。第2章「時系列（1次元）

データの解析」では、フィルタリングや周期性の検出、また長期変化傾向（トレンド）・不連続的な変化（ジャンプ）の検出について、第3章「空間（2次元）データの解析」では、主成分解析・特異値分解解析・クラスター解析といった解析手法について解説され、加えてこれらの解析を実際に行うための Fortran プログラムが多数掲載されている。また付録として、Windows 上でのプログラミング環境のセットアップや、Macintosh での UNIX 環境の構築などについても説明されており、解析を始める際に、最初につまずきがちな部分が丁寧にフォローされている。身近なところにパソコンについて相談できる人がいない場合でも、まずは自分の手で始めてみようという気持ちにさせてくれる。

著者が「はじめに」で述べているように、本書は漠然と教科書的に目を通すより、具体的な研究課題を持って主体的に取り組んでいる時に読むことで、より高い学習効果を得ることができるように書かれている。近年は、雪氷関連のグローバルなデータベースも充実してきている。本書を片手にデータ解析に挑戦してみたいかだろうか。

(首都大学東京 中野智子)

(2008年11月13日)